

## 腫瘍熱

腫瘍熱の明確な診断基準はない

主な特徴：

- ・感染フォーカスが同定できない
- ・発熱が定期的であり自然に解熱するが全身状態が良い
- ・悪寒・戦慄を伴わない
- ・CRPが慢性的に5～10である

その他の特徴：

アレルギー機序はない、ナロキソン有効、経験的に有効と考える抗生物質を7日間以上使用したが解熱しない

腫瘍熱が起こりやすいがん：

血液悪性腫瘍、腎細胞がん、副腎腫瘍、骨肉腫、大腸がん、肝細胞がん、膵臓がん、転移性肝腫瘍

### ■腫瘍随伴症候群について

- ・腫瘍随伴症候群とは、腫瘍またはその転移巣から離れた部位で生じるいくつかの症状。
- ・全身性、皮膚、内分泌性、消化管、血液、神経性、腎性、リウマチ性などの多彩な症状を呈す
- ・これらの症状は腫瘍から分泌される物質によって二次的に発生するか、または腫瘍に向かう抗体が他の組織と交差反応した結果起こりうる。症状は、いずれの臓器または生理系においても生じうる。
- ・最高 20%の癌患者が腫瘍随伴症候群を経験するものの、しばしばこれらの症候群は認識されない。
- ・腫瘍随伴症候群に関連する最も一般的な癌は肺由来のものである；その他は腎癌、肝細胞癌、白血病、リンパ腫、乳房および卵巣の腫瘍、神経の癌、胃および膵臓の腫瘍などである。

### 【全身の腫瘍随伴症候群】

- ・症状として**発熱**、寝汗、食欲不振、悪液質など。
- ・これらは免疫反応に関与するリンホカインの放出から、または腫瘍壊死因子 $\alpha$ など腫瘍細胞死に関与するメディエーター（炎症性サイトカイン）から起こりうる。

## 進行した病状における感染症治療 (抗生剤投与)での留意事項

感染症に対する治療を行うかどうか、その効果（症状が緩和される可能性、生存期間が延びるかどうかなど）に対する情報を提供した上で、本人、家族の希望を聞く

抗生剤治療の目的は症状緩和

尿路感染症は抗生剤治療により症状が緩和する可能性が高い

呼吸器感染症・口腔内感染症・皮膚感染症などは症状が緩和する可能性は高くない

敗血症、菌血症では症状は緩和されない

ただし、敗血症、臓器感染症では抗生剤治療の効果があれば生存期間は延びる可能性はある

Textbook of palliative medicine and supportive care (Bruera, Higginson, Gunten, Morita 2015)